

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	熊本大学	整理番号	I02
プログラム名称	グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO		
プログラム責任者	西村 泰治	プログラム コーディネーター	小椋 光

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

[総括評価]

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、地方大学の強みをうまく活用しつつ、学生の育成を十分に考えた研究室ローテーション実習などを含む具体的なプログラムが行われており、このまま努力を継続すれば、本プログラムの目的は十分に達成できると期待される。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、プログラムとして国内外に多様なインターンシップや留学先を準備しているほか、学生が自主的に企画提案しインターンシップを実施するなど能動的な取組もなされ、学生のキャリアパスの広がりも見られるなど、大いに評価できる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、学長以下、プログラム責任者及びプログラムコーディネーターの熱意とリーダーシップが順調なプログラム運営につながっている。また、地域行政機関と密着し、行政からの指導・評価を受けながら行政インターンシップなどの取組を進めている点は、学生がリーダーとして活躍する素地を作る効果が期待される。医学・薬学の学生に、社会文化科学の学習とレポートの作成を義務付けている点も特色がある。また、学生1人に対し特任教員とプログラム担当者各1名のメンターを配置しており、プレゼンテーション用の資料作成、会議の企画運営など、多方面において学生からの相談・指導を行っており、評価できる。

優秀な学生の獲得については、留学生をアジア太平洋地域から積極的にリクルートしており、優秀な学生が集まっている。日本人についても、社会人経験者を始めとして希望者が増加してきており、プログラム全体の活気が学生の獲得に好影響を与えていると評価できる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、博士課程2年次後期の学生に対して継続の可否を判定するため、2名のメンター教員による中間インタビューを実施し、リサーチプロポーザルと履修状況の確認を行っている。また、e-ポートフォリオシステムを導入し、各学生のプログラムにおける活動状況や評価結果を一元的に管理・把握するシステムを構築しており評価できる。

事業の定着・発展については、本プログラムを学長直轄の全学組織である「大学院先導機構」の中に「リーディング大学院部門」として位置付け、継続を見据えた全学的な体制が構築されている。また、財政面では支援期間終了後、大学独自の資金により本プログラムを継続する旨、学長から理解と了解を得られており評価できる。ただし、学生への経済的支援についての具体的な予算案は、支援期間終了後に学長から提示を受けるとされているが、十分な支援を継続できるよう今後一層の努力が求められる。